

1. 小学校英語への関心

8割近い保護者が、小学校の英語教育に関心をもっている。また、保護者の英語の好き嫌いや英語での苦勞の有無によって、小学校英語に対する関心の有無にも違いがみられる。

Q あなたは、小学校の英語教育に、どのくらい関心がありますか。

図1-1-1 小学校英語への関心 (n=4,718)

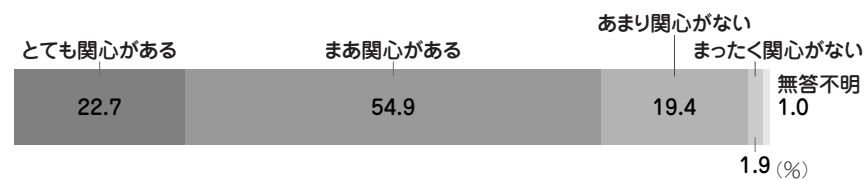
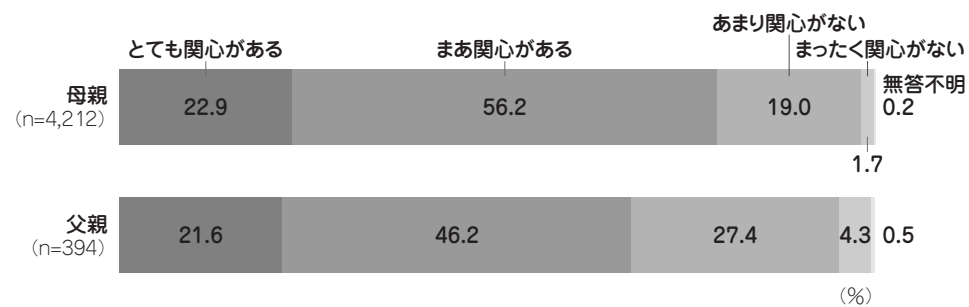


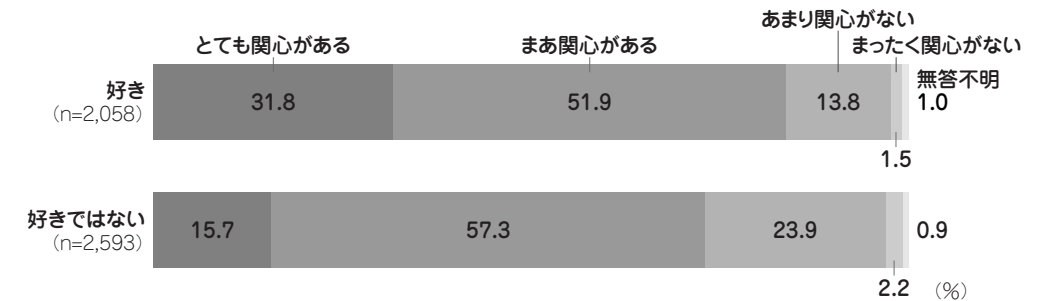
図1-1-2 小学校英語への関心 (子どもとの続柄別)



公立小学校での英語教育の本格的な導入については、現在、その議論の途中であるが、すでに、ほとんどの小学校で何らかのかたちで英語教育が行われている。ただ、英語教育を実施するためのカリキュラムや指導者、教材などのさまざまな条件がまだまだ不十分で、その取り組み内容や頻度は自治体、学校ごとにバラつきがあるのが現状である(『第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)報告書』参照)。とはいえ、全国の9割以上の公立小学校で何らかのかたちで英語教育が行われている現状を踏まえ、保護者は小学校での英語教育について、どのくらい関心があるのかをたずねたところ、77.6%の保護者が「関心がある(とても+まあ、以下同様)」と回答した(図1-1-1)。小学校での英語教育に対する保護者の関心が高いことがわかる。

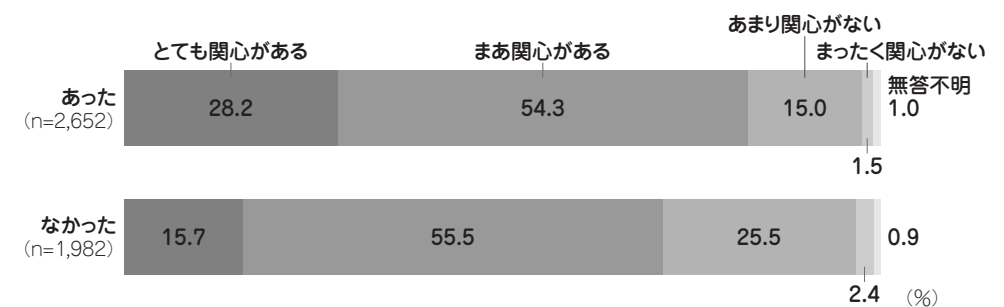
次に、子どもとの続柄別にみると、「関心がある」との回答は、母親で79.1%、父親では67.8%と、英語教育に対する関心は母親の方が11.3ポイント高かった(図1-1-2)。

図1-1-3 小学校英語への関心(保護者の英語の好き嫌い別)



*「好き」は、「英語が好きですか」の設問で「とても好き」「まあ好き」と回答した場合。「好きではない」は、「あまり好きではない」「まったく好きではない」と回答した場合。

図1-1-4 小学校英語への関心(英語での苦勞の有無別)



*「あった」は、「今まで英語で苦勞したことがありますか」の設問で「とてもあった」「まああった」と回答した場合。「なかった」は、「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した場合。

さらに、保護者の英語の好き嫌い別にみると、「好き」の場合には「関心がある」という回答が83.7%、「好きではない」の場合には「関心がある」という回答が73.0%であり、保護者が英語を「好き」だという場合の方が、小学校の英語教育に対する関心がより高くなるようである(図1-1-3)。

また、保護者の今までの英語での苦勞の有無別に小学校の英語教育に対する関心についてみると、英語で苦勞したことが「あった」場合は「関心がある」という回答が82.5%、「なかった」場合は71.2%と、今まで英語で苦勞したことが「あった」保護者の方が、小学校の英語教育に対して関心がある割合は11.3ポイント高かった(図1-1-4)。

総じて、小学校の英語教育に対する保護者の関心の高さがうかがえる。小学校での英語教育の本格的導入に関してはさまざまに議論されているが、保護者の関心の高さも考慮すべきであろう。

ただ、英語教育に対する保護者の関心の有無には、保護者自身の英語の好き嫌いや、今までの英語での苦勞の有無により違いがみられ、それらが子どもの英語教育、英語学習に対して何らかの影響を与えていると考えられる。

2. 必修化に対する賛否

小学校で英語教育を必修にすることに「賛成」の保護者は76.4%、「反対」の保護者は14.0%。一方、教員は英語教育を行うことについてはおよそ3人に2人(67.1%)が賛成しているが、必修化に対する賛成意見は36.8%と保護者との意見の違いがみられる。

Q あなたは、小学校で英語教育を必修にすること(どの学校でも必ず英語を学ぶようにすること)について、賛成ですか、反対ですか。

図1-2-1 小学校英語の必修化に対する賛否 (n=4,718)

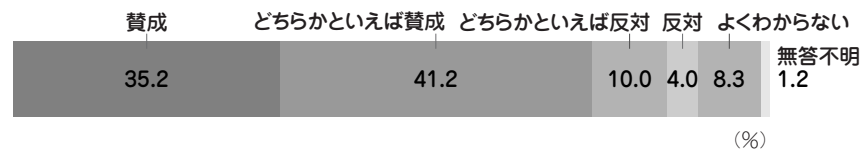
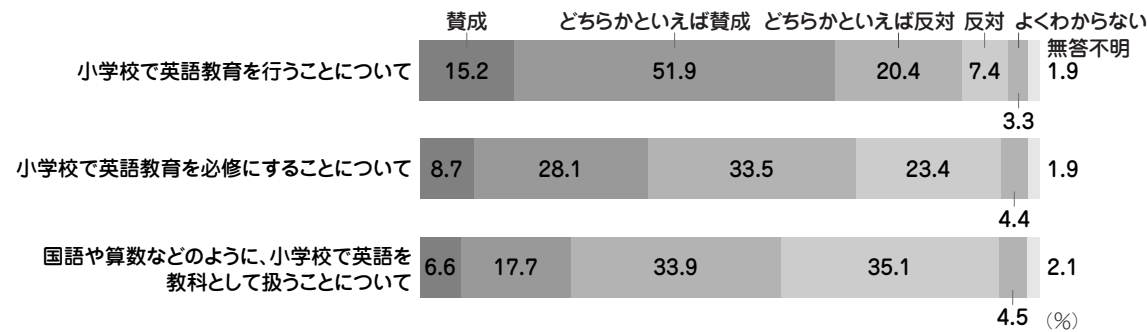


図1-2-2 英語教育に対する賛否(教員調査) (n=3,503)



*[第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)報告書]より。

図1-2-3 小学校英語の必修化に対する賛否(子どもとの続柄別)

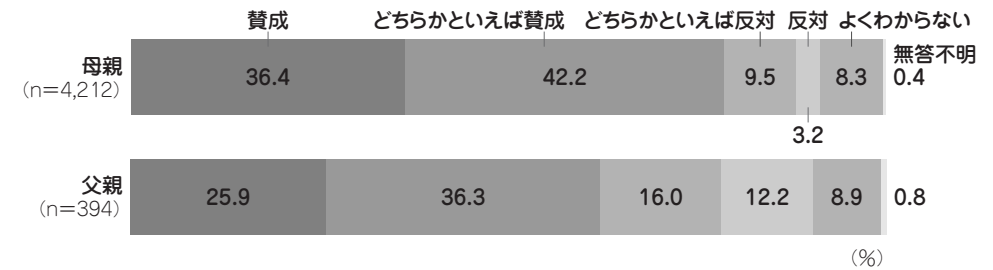
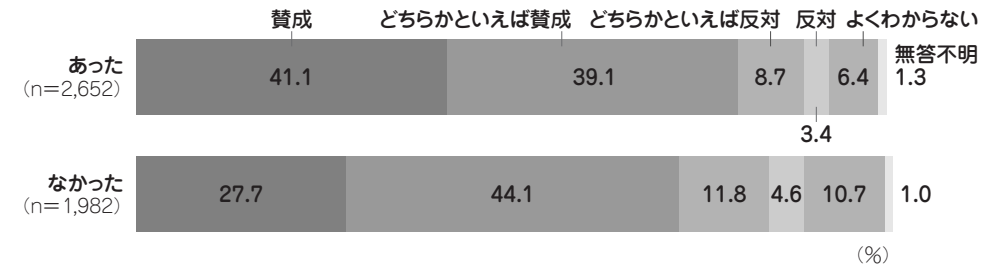


図1-2-4 小学校英語の必修化に対する賛否(英語での苦勞の有無別)



*「あった」は、「今まで英語で苦勞したことがありますか」の設問で「とてもあった」「まああった」と回答した場合。「なかった」は、「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した場合。

2006年3月に中央教育審議会(以下、中教審)の外国語専門部会で、「小学校における英語教育について」の報告がなされた。その後、公立小学校における英語教育の必修化が予想されているが、保護者はどのような意見をもっているのだろうか。小学校で英語教育を必修にすることに対する賛否をたずねたところ、保護者の76.4%が「賛成(賛成+どちらかといえば賛成、以下同様)」と回答し、14.0%が「反対(反対+どちらかといえば反対、以下同様)」という回答で、8割弱の保護者が小学校英語の必修化に関して賛成していることがわかる(図1-2-1)。

一方で、教員は、小学校における英語教育についてどのように考えているのだろうか。先に行った教員調査の結果から教員の意識についてもみてみよう(図1-2-2)。まず、「小学校で英語教育を行うことについて」は、67.1%が「賛成」しており、小学校で英語を教えること自体への抵抗感は少ないようである。ただし、「小学校で英語教育を必修にすることについて」は、「賛成」という回答は36.8%と少なく、保護者の「賛成」意見の半数以下である。さらに、「小学校で英語を教科として扱うことについて」に「賛成」という回答は24.3%にとどまり、必修化、教科化になると、反対する教員が多くなることがわかる。ここに、保護者と教員の意識の違いがみられる。

さらに、子どもとの続柄別に小学校英語の必修化に対する賛否をみると、「賛成」という回答は、母親は78.6%、父親は62.2%で、母親の方が「賛成」という回答が16.4ポイント多い(図1-2-3)。

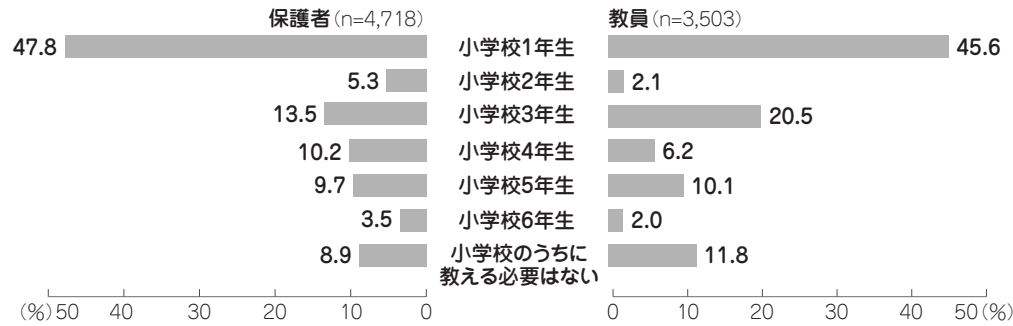
次に、英語での苦勞の有無別に小学校英語の必修化に対する賛否をみると、今まで英語での苦勞が「あった」保護者は、小学校英語の必修化に「賛成」と回答している割合が80.2%、英語での苦勞が「なかった」保護者は71.8%と、英語での苦勞が「あった」保護者の方が8.4ポイント高い。また、英語での苦勞が「なかった」保護者の方が、「よくわからない」という回答が若干高い(図1-2-4)。図表は省略するが、保護者の英語の好き嫌い別にも小学校英語の必修化の賛否をみると、英語が「好き(とても+まあ)」な場合は「賛成」という回答が80.6%、「好きではない(あまり+まったく)」場合は73.6%と、「好き」な場合の方が7.0ポイント高かった。今まで、英語で苦勞したことがあったり、英語が好きであったりする保護者ほど、小学校英語の必修化に賛成する割合が高くなるようだ。

3. 望ましい開始学年

「小学校1年生」という回答がもっとも多く、47.8%であった。教員調査でも同様の傾向がみられ、保護者、教員ともに、小学校の早期から英語教育を開始するのが望ましいと考えている。

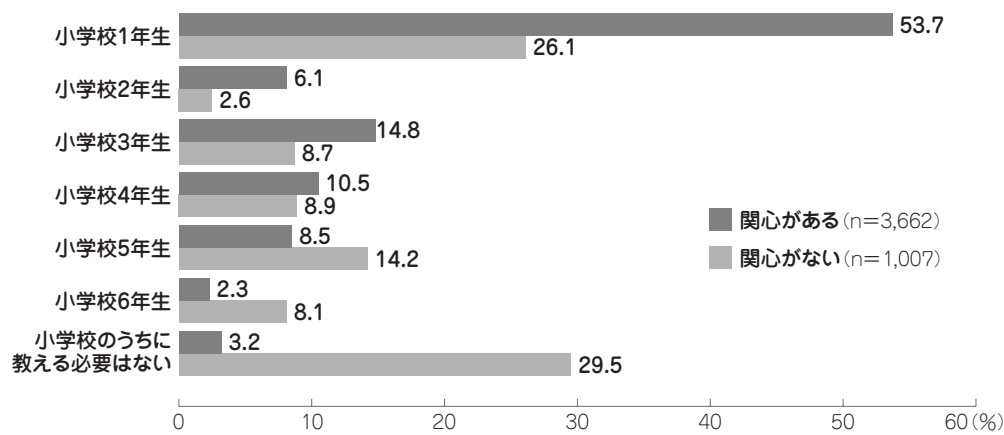
Q 小学校で英語教育を行う場合、どの学年から開始するのがよいと思いますか。

図1-3-1 望ましい開始学年



*教員調査は「第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)報告書」より。
*「無答不明」は図から省略した。

図1-3-2 望ましい開始学年(小学校英語への関心の有無別)

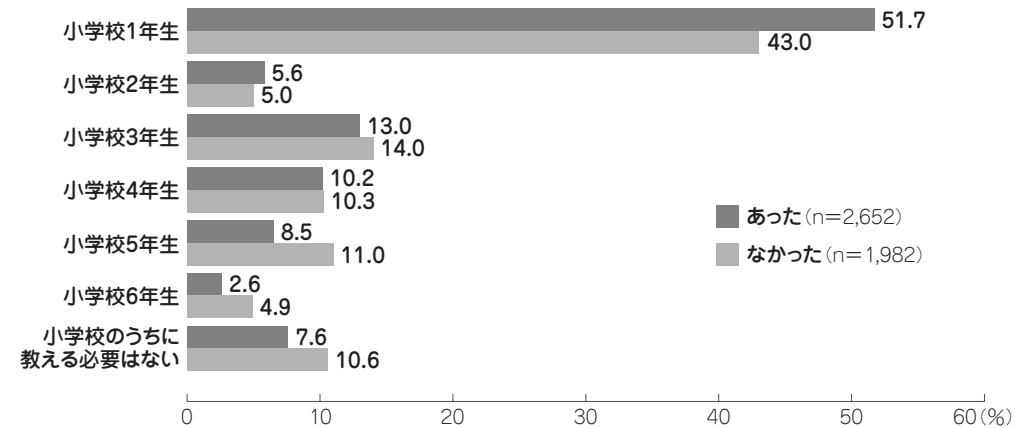


*「関心がある」は、「小学校の英語教育に、どのくらい関心がありますか」の設問で「とても関心がある」「まあ関心がある」と回答した場合。「関心がない」は、「あまり関心がない」「まったく関心がない」と回答した場合。
*「無答不明」は図から省略した。

小学校英語に対する関心が高く、必修化に対しても賛成意見が多い保護者だが、小学校で英語教育を行う際の開始学年についてはどのように考えているのだろうか。小学校で英語教育を行う場合にどの学年から始めるのがよいかをたずねたところ、「小学校1年生」がもっとも多く47.8%で、次いで「小学校3年生」が13.5%だった。保護者は、小学校での英語教育は早くから始めたほうがよいと考えているようだ。これは、先に行った教員調査でも同様の傾向がみられ、望ましい開始学年として、教員も「小学校1年生」という回答が45.6%で一番多かった(図1-3-1)。

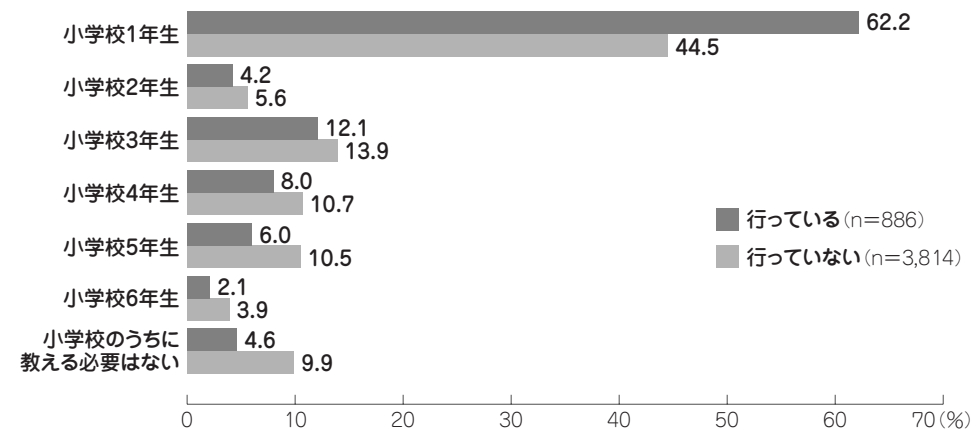
望ましい開始学年について小学校英語への関心の有無別にみると、「小学校1年生」という回答は、「関心がある」保護者の方が、「関心がない」保護者よりも27.6ポイントも多い。一方で、「関心がない」保護者は、「小学校のうちに教える必要はない」という回答が約3割だった(図1-3-2)。

図1-3-3 望ましい開始学年(英語での苦勞の有無別)



*「あった」は、「今まで英語で苦勞したことがありますか」の設問で「とてもあった」「まああった」と回答した場合。「なかった」は、「あまりなかった」「まったくなかった」と回答した場合。
*「無答不明」は図から省略した。

図1-3-4 望ましい開始学年(学校外での英語学習の有無別)



*「現在、お子様は、学校の授業以外で、英語や英会話の学習を行っていますか」の設問で、「行っている」「行っていない」と回答した場合。
*「無答不明」は図から省略した。

さらに、保護者の今までの英語での苦勞の有無別にみてみよう。保護者自身が英語で苦勞した場合、子どもには、より早くから英語を学ばせようとするようになるのだろうか。

望ましい開始学年についての回答結果の傾向は、図1-3-1の全体の割合と同様で、苦勞の有無にかかわらず「小学校1年生」という回答が一番高かったが、保護者自身が英語で苦勞した場合の方が、苦勞していない場合よりも「小学校1年生」と回答する割合が約9ポイント高い(図1-3-3)。

最後に、学校外での英語学習の有無別に望ましい開始学年についてみたところ、学校の授業以外で、英語や英会話の学習を「行っている」子どもの保護者の方が、小学校英語の望ましい開始学年として「小学校1年生」と回答する割合が17.7ポイントも高い。子どもに学校外でも英語学習をさせている保護者は、小学校英語をより早いうちから行ったほうがよいと考えているようだ(図1-3-4)。

4. 小学校英語に期待できる効果

7割前後の保護者が、「外国に対して興味をもつようになる」「中学校での英語学習がスムーズになる」「発音や聞き取りがうまくなる」という効果があるだろうと考えている。また、小学校英語の必修化に「賛成」の保護者の方が期待が高い。

Q 小学校に英語教育を導入することで、次のような効果が期待できると思いますか。

図1-4-1 小学校英語に期待できる効果 (n=4,718)

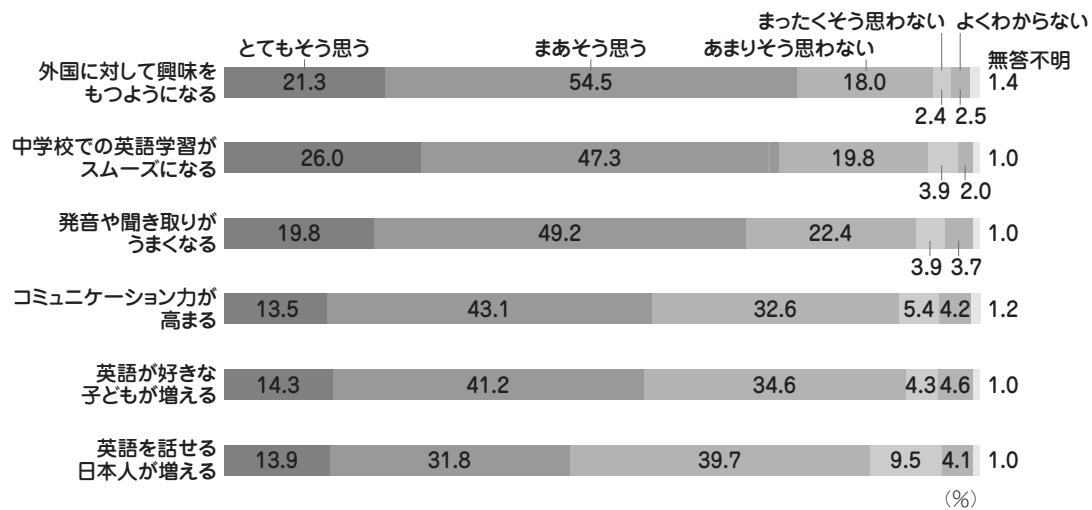
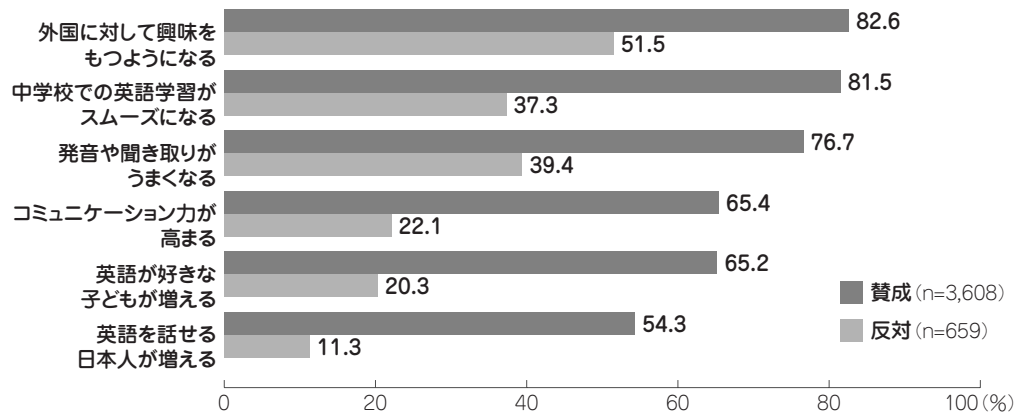
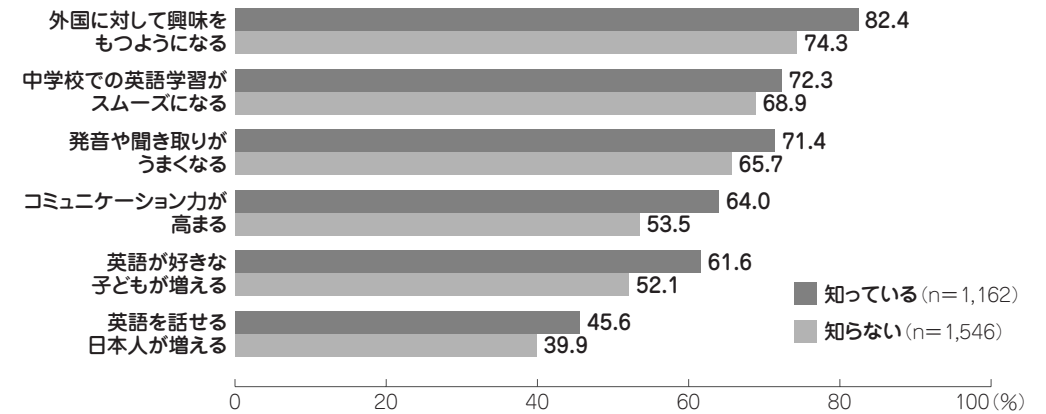


図1-4-2 小学校英語に期待できる効果(小学校英語の必修化の賛否別)



*「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。
*「賛成」は、「小学校で英語教育を必修にすることについて、賛成ですか、反対ですか」の設問で「賛成」どちらかといえば賛成」と回答した場合。「反対」は、「反対」どちらかといえば反対」と回答した場合。

図1-4-3 小学校英語に期待できる効果(学校での英語教育内容の認知別)



*「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。
*「知っている」は、「お子様が学校でどのような内容の英語教育を受けているかを知っていますか」の設問で「よく知っている」「だいたい知っている」と回答した場合。「知らない」は、「あまり知らない」「まったく知らない」と回答した場合。

今後、小学校に英語教育が本格的に導入された場合、どのような効果が期待できると保護者は考えているのだろうか。小学校の英語教育に期待できると思う効果をたずねたところ、「そう思う(とても+まあ、以下同様)」という回答が多かったのは、「外国に対して興味をもつようになる」(75.8%)、「中学校での英語学習がスムーズになる」(73.3%)、「発音や聞き取りがうまくなる」(69.0%)などで7割前後だった(図1-4-1)。

次に、小学校英語の必修化に対する賛否別にみると、小学校英語の必修化に「賛成」の保護者の方が「反対」の保護者よりどの項目でも「そう思う」という回答が30ポイント以上高く、効果が期待できると考えている割合が高い。特にその差が大きかったのは、「英語が好きな子どもが増える」で、「賛成」の保護者は65.2%なのに対し、「反対」の保護者は20.3%と「賛成」の保護者の方が44.9ポイントも高い。小学校英語の必修化に「賛成」の保護者は、小学校で英語教育が行われることによって、「英語が好きな子どもが増える」と強く期待していることがわかる(図1-4-2)。

さらに、学校で行われている英語教育の内容の認知別にみてみよう(図1-4-3)。現在、自分の子どもが通っている小学校で行われている英語教育の内容を知っている保護者と知らない保護者とは、期待できると思う効果も異なるのだろうか。「知っている」保護者と「知らない」保護者との差は、それほど大きくはなかったが、その中で両者の差がもっとも大きいのは「コミュニケーション力が高まる」で、「知っている」保護者の方が10.5ポイント高かった。現在行われている英語教育を知った上で、「コミュニケーション力が高まる」ことを期待できる効果としてとらえているといえる。逆に、「中学校での英語学習がスムーズになる」は小学校での英語教育内容の認知の有無によってあまり大きな差はみられず、期待できると考えられている割合も高い。こうした効果は実際に行われている英語教育の内容にかかわらず、保護者に期待されているようだ。

5. 小学校英語への不安

6割以上の保護者が、「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「外国人の先生の数が多いこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」について不安を感じている。

Q 小学校の英語教育について、次のようなことに不安を感じますか。

図1-5-1 小学校英語への不安 (n=4,718)

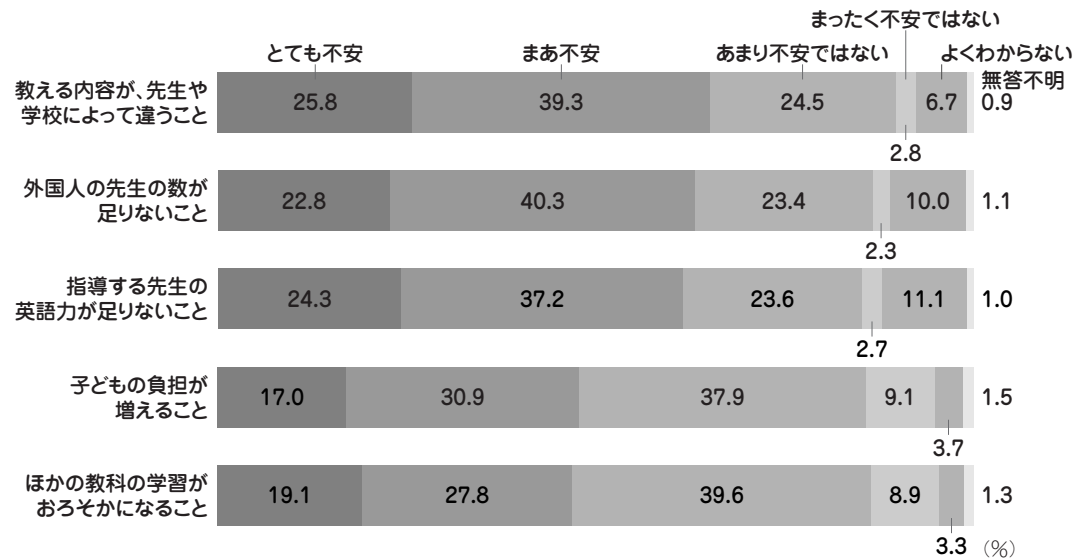
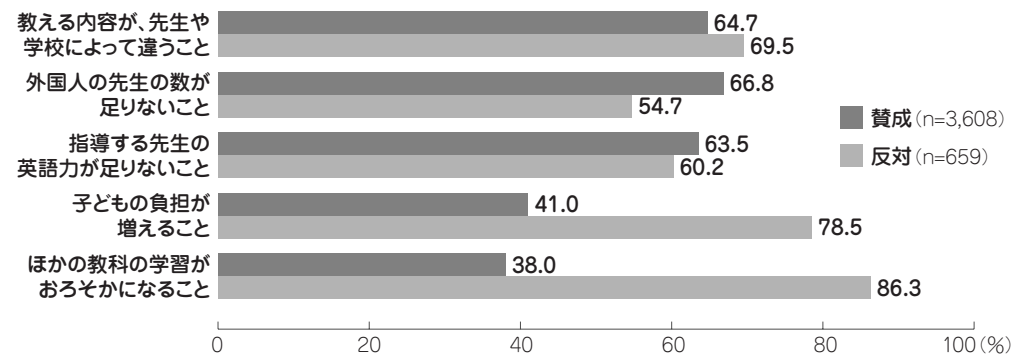
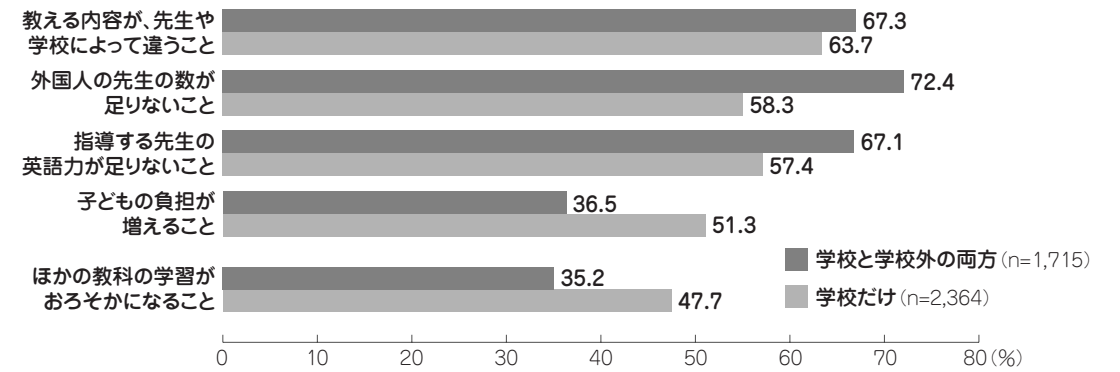


図1-5-2 小学校英語への不安 (小学校英語の必修化の賛否別)



*「とても不安」+「まあ不安」の%。
*「賛成」は、「小学校で英語教育を必修にすることについて、賛成ですか、反対ですか」の設問で「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した場合。「反対」は、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した場合。

図1-5-3 小学校英語への不安 (英語学習の望ましい場別)



*「とても不安」+「まあ不安」の%。
*「学校と学校外の両方」は、「お子様が小学生のうちに英語を学習するとしたら、どこで学ぶのがよいと思いますか」の設問で、「学校と学校外(習い事や塾)の両方で学ぶのがよい」と回答した場合。「学校だけ」は、「学校だけで学ばせたい」と回答した場合。「学校外(習い事や塾)だけで学ばせたい」「英語を学ぶ必要はない」と回答した場合と、「無答不明」の場合は図から省略した。

小学校の英語教育に関して不安を感じることに気づけたところ、「不安(とても+まあ、以下同様)」という回答が多かったのは、「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「外国人の先生の数が多いこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」で、いずれも6割以上だった(図1-5-1)。小学校英語を行う上で行政や学校・教員が課題として抱えている条件整備の不十分さについて、保護者も不安を感じているようである。

また、小学校英語の必修化に対する賛否別に、不安を感じていることの違いをみた(図1-5-2)。特に大きな違いがみられたのは、「子どもの負担が増えること」(「賛成」41.0%<「反対」78.5%、以下同様)、「ほかの教科の学習がおろそかになること」(38.0%<86.3%)で、必修化に「反対」の保護者の不安が高かった。これらが必修化に反対している理由とも考えられよう。一方で、「教える内容が、先生や学校によって違うこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」については賛否別で差がそれほどなく、賛否に関係なく保護者が不安を感じているようである。

さらに、保護者の不安と、英語学習をするのに望ましいと考えている場とに関連性があるかどうかをみてみたのが図1-5-3である。英語学習は「学校と学校外の両方」でするのが望ましいと感じている保護者は、小学校での英語教育について「外国人の先生の数が多いこと」「指導する先生の英語力が足りないこと」に「不安」を感じている割合が高く、その部分を学校外での学習で補おうと考えていると推測できる。一方で、英語学習をするのは「学校だけ」でよいと考えている保護者は、「子どもの負担が増えること」「ほかの教科の学習がおろそかになること」に「不安」を感じている割合が高い。

6. 小学校英語に望むこと

9割以上の保護者が「英語に対する抵抗感をなくすこと」「英語の音やリズムに触れたり、慣れたりすること」を望んでいる。文字指導については、保護者と教員の意識にギャップがみられる。

Q 小学校で英語教育を行うとしたら、あなたは次のようなことをどのくらい望みますか。

図1-6-1 小学校英語に望むこと (n=4,718)

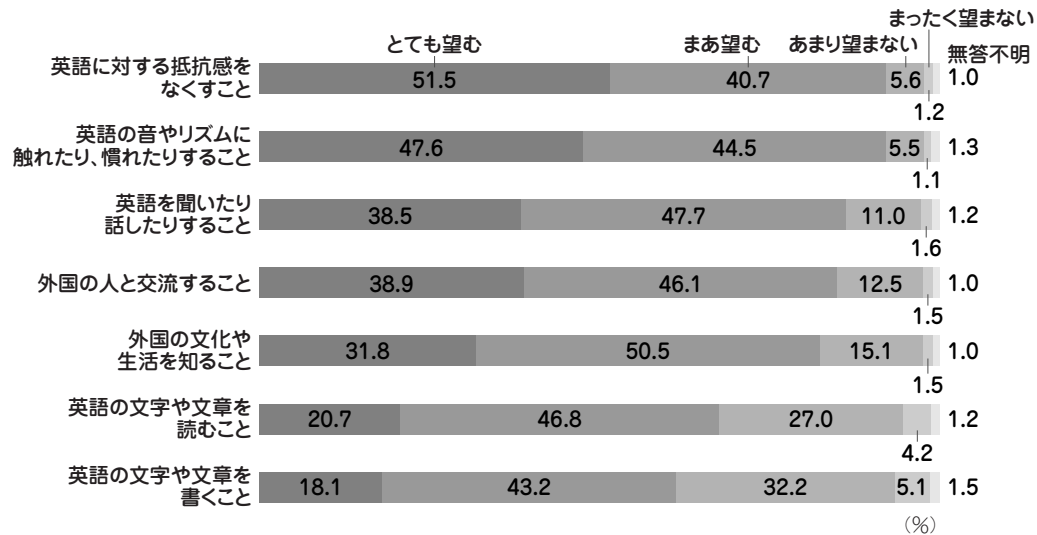
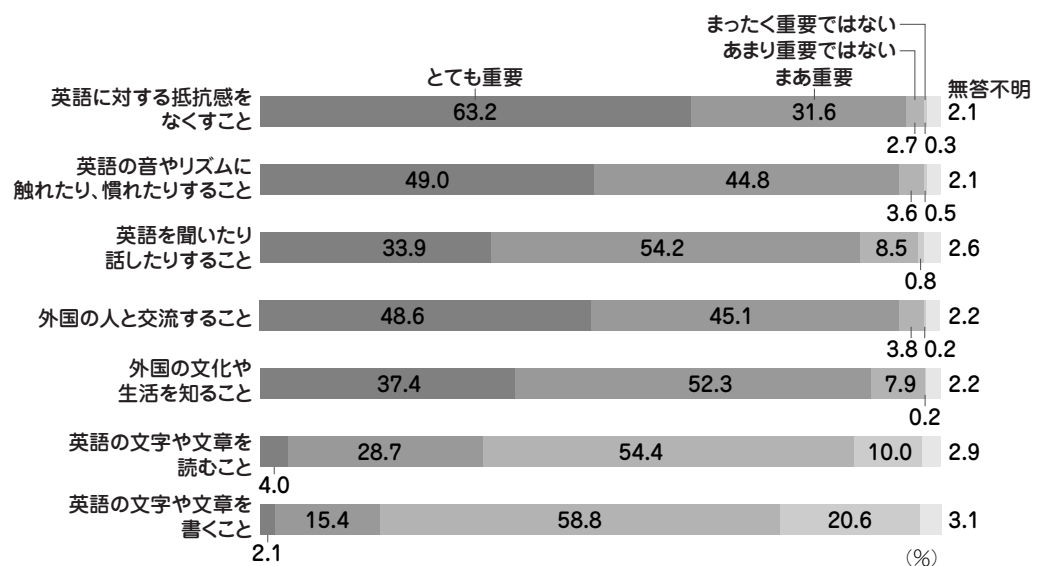


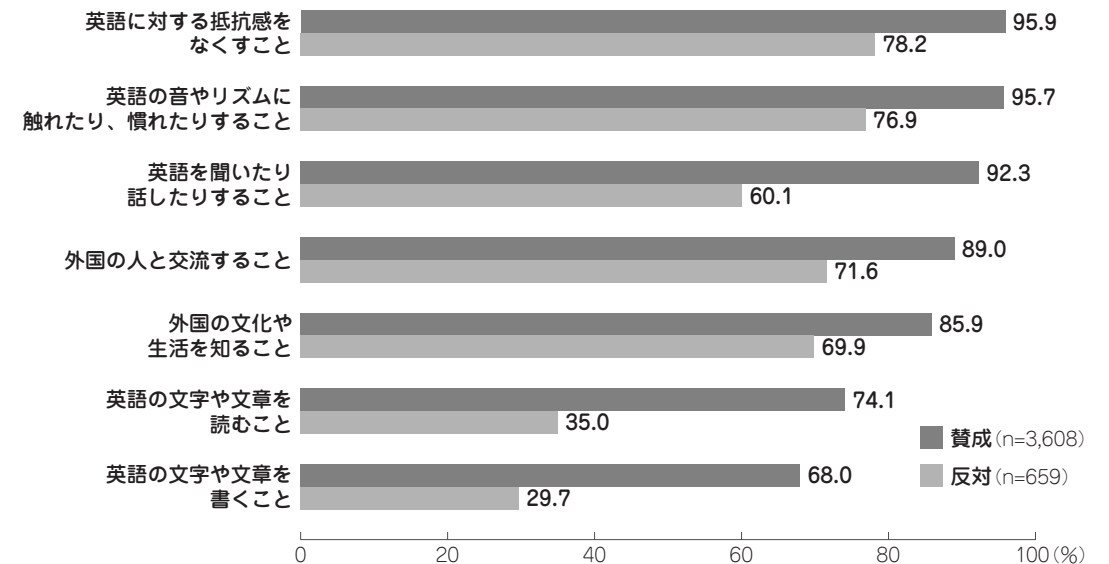
図1-6-2 小学校英語で重要なこと (教員調査) (n=3,503)



*「第1回小学校英語に関する基本調査(教員調査)報告書」より。

*「小学校で英語教育を行うとしたら、次のようなことはどのくらい重要だと思いますか」の設問についての回答。

図1-6-3 小学校英語に望むこと (小学校英語の必修化の賛否別)



*「とても望む」+「まあ望む」の%。

*「賛成」は、「小学校で英語教育を必修にすることについて、賛成ですか、反対ですか」の設問で「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答した場合。「反対」は、「反対」「どちらかといえば反対」と回答した場合。

小学校の英語教育に対して望むことをたずねたところ、「英語に対する抵抗感をなくすこと」「英語の音やリズムに触れたり、慣れたりすること」で、「望む(とても+まあ、以下同様)」という回答が9割以上を占め、ほとんどの保護者が望んでいることがわかる(図1-6-1)。また、「英語を聞いたり話したりすること」「外国の人と交流すること」「外国の文化や生活を知ること」についてもその割合は8割以上と高い。

一方、教員調査でも、同じ項目について「小学校で英語教育を行うとしたら、次のようなことはどのくらい重要だと思いますか」とたずねている。その結果と比較してみると、大きな違いがあるのは、文字に関連する部分である。保護者は、「英語の文字や文章を読むこと」「英語の文字や文章を書くこと」についても6割以上が望んでいるが、教員はそれらについて「重要(とても+まあ)」と考える割合が相対的に低く、「読むこと」は32.7%、「書くこと」は17.5%だった。これは、小学校での英語教育における保護者と教員の意識のギャップによるものといえる(図1-6-2)。

また、小学校英語の必修化に対する賛否別にみると、どの項目でも「賛成」の保護者の方が望む割合が高いが、特に「英語を聞いたり話したりすること」「英語の文字や文章を読むこと」「英語の文字や文章を書くこと」などで「反対」の保護者に比べてその割合が高かった(図1-6-3)。小学校英語の必修化に賛成している保護者は、英語でコミュニケーションを取ったり、文字指導を行ったりすることを小学校英語に望んでいるようである。

表1-6-1 小学校英語に望むこと(学年別)

(%)

	学年別					
	1年生 (n=732)	2年生 (n=711)	3年生 (n=758)	4年生 (n=766)	5年生 (n=790)	6年生 (n=830)
英語に対する抵抗感をなくすこと	91.2	92.8	91.7	92.3	93.1	92.1
英語の音やリズムに触れたり、慣れたりすること	92.4	93.2	91.0	93.3	91.8	91.3
英語を聞いたり話したりすること	85.3	86.2	84.3	88.0	88.0	85.6
外国の人と交流すること	84.4	87.6	84.0	85.1	85.2	83.9
外国の文化や生活を知ること	84.2	83.5	82.2	81.6	82.6	80.9
英語の文字や文章を読むこと	68.6	64.6	64.5	68.3	70.3	67.9
英語の文字や文章を書くこと	62.1	58.4	60.6	61.1	63.7	61.3

*「とても望む」+「まあ望む」の%。

表1-6-2 小学校英語に望むこと

(保護者の英語の好き嫌い別/英語を使うことへの自信の有無別)

	保護者の 英語の好き嫌い別		英語を使うことへの 自信の有無別	
	好き (n=2,058)	好きではない (n=2,593)	自信がある (n=456)	自信がない (n=4,196)
英語に対する抵抗感をなくすこと	94.1	90.7	88.1	92.7
英語の音やリズムに触れたり、慣れたりすること	94.3	90.5	89.0	92.5
英語を聞いたり話したりすること	88.7	84.4	83.2	86.7
外国の人と交流すること	90.2	> 80.9	85.7	85.0
外国の文化や生活を知ること	88.6	>> 77.4	85.5	82.0
英語の文字や文章を読むこと	69.7	65.9	62.1	< 68.2
英語の文字や文章を書くこと	62.1	60.7	55.7	< 61.9

(%)

*「とても望む」+「まあ望む」の%。

*<>は5ポイント以上の差があったもの。<<>>は10ポイント以上の差があったもの。

*「好き」は、「英語が好きですか」の設問で「とても好き」「まあ好き」と回答した場合。「好きではない」は、「あまり好きではない」「まったく好きではない」と回答した場合。

*「自信がある」は、「英語を使うことに自信がありますか」の設問で「とても自信がある」「まあ自信がある」と回答した場合。「自信がない」は、「あまり自信がない」「まったく自信がない」と回答した場合。

さらに、小学校での英語教育に望むことは子どもの学年によって違いがあるのかもみた。しかし、表1-6-1にあるように、小学校英語に望むことは学年によってそれほど大きな違いはみられなかった。後でみるように、学校外で英語を学習している理由は、その目的などが関連して、学年による変化がみられたが、それは対照的である。

最後に、保護者の英語に対する意識の違いによって、小学校英語に望むことには違いがみられるのかをみてみよう(表1-6-2)。

まず、保護者の英語の好き嫌いによって小学校英語に望むことは違いがみられるかどうかであるが、英語が「好き」な保護者の方が「外国の人と交流すること」「外国の文化や生活を知ること」を望む割合が高い。これらのことが英語を好きになったり興味をもったりすることにつながると考えているからであろうか。小学校英語では、その楽しさを子どもに伝えてほしいと望んでいる表れとみることもできる。

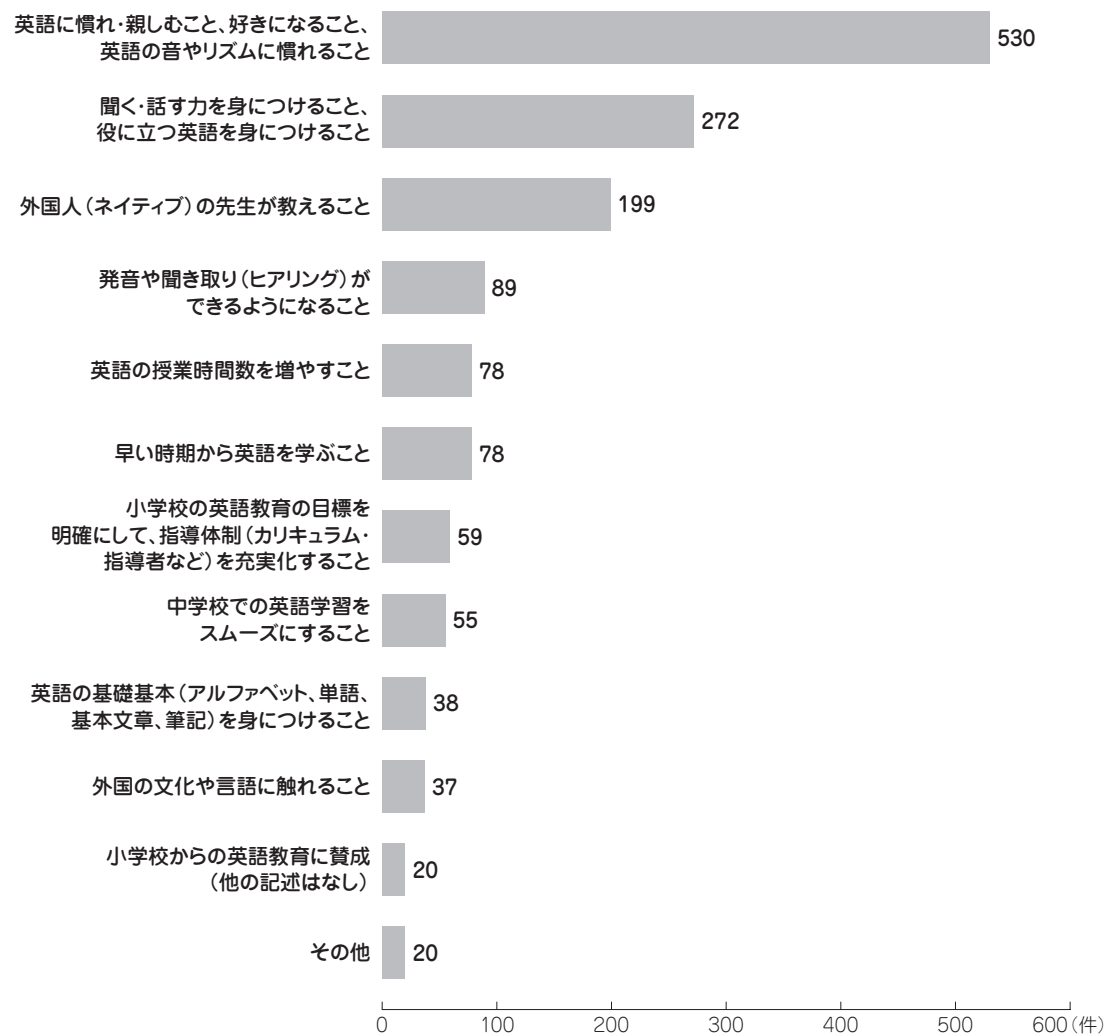
また、保護者が英語を使うことへの自信の有無別にもみると、違いがみられたのは「英語の文字や文章を読むこと」「英語の文字や文章を書くこと」といった文字指導の部分だった。英語に「自信がない」という保護者ほど、小学校の英語教育から文字指導を行うことを望んでいるようである。

7. 小学校英語への期待、不安や心配(自由記述分析)①期待すること

小学校英語には「英語に慣れ・親しむこと、好きになること」を期待する声が多くもともと多い。さらに、「聞く・話す力」「発音や聞き取り」など、英語の音声に関する力がつくことへの期待も大きい。

Q 小学校での英語教育に対して、期待することや、不安や心配に思うことがありますか。もし何かございましたら、ご自由にご記入ください。

図1-7-1 小学校英語に対して期待すること



*調査回答者4,718人中、本設問に何らかの記述があったのは1,570人であった。1人分の回答でも、内容的に複数に分かれるものは分解して分類したため、分析対象は2,437件であった。このうち「期待すること」に分類したものが1,475件、「不安や心配に思うこと」に分類したものが855件であった。その他に、論点とは異なる記述や「特になし」などの記述があったものが107件あった。ここではそのうち、「期待すること」に分類した1,475件を示す。

前節までは、小学校英語に対する保護者の思いを、選択肢に対する回答からみてきた。しかし、選択肢を提示するこの形式では、つかめないことも少なくない。そこで本節では、「小学校での英語教育に対して、期待することや、不安や心配に思うことがありますか」という設問の自由記述回答から、保護者の具体的な声を拾い上げてみたい。

そこでまずは、小学校英語に対して「期待すること」からみていきたい(図1-7-1)。なお、以下に示す保護者の自由記述は、明らかな誤字脱字の場合を除き、原文のままとした。

(1)英語に慣れ・親しむこと、好きになること、英語の音やリズムに慣れること

保護者が期待していることとしてもっとも多かった回答は、「英語に慣れ・親しむこと、好きになること、英語の音やリズムに慣れること」というものである(530件)。これは言語習得よりも、興味・関心、意欲の育成を目指すという、現状の小学校での英語教育の方向性と一致しているものである。

- ・小学校からの英語教育は、むずかしいことより、慣れ親しみ「英語が好き」になるような、教育をしてほしい。
- ・海外や英語に興味を持つ、きっかけになれば良いと思う。
- ・小学生のうち、特別に“英語”を勉強するというかたちでなく、楽しむ。慣れ親しめて、中学に上がった時の抵抗感がないくらいでいいのではないかと思います。

また、この方法としては、ゲームやダンスなどの自由な遊びを通して、英語の音やリズムに慣れていってほしいという回答が典型的である。

- ・無理矢理頭に入れさせるのではなく、遊びながら自然なかたちで吸収していってくれば一番です。
- ・歌や、絵本など、楽しみながら遊びながら、英語に親しむ時間が体験できるといいと思います。

(2)聞く・話す力を身につけること、役に立つ英語を身につけること

次に、「聞く・話す力を身につけること、役に立つ英語を身につけること」という回答が多くみられた(272件)。文字を読んだり書いたりすることよりも、英語を聞き、話せるようになってほしい、という声である。

- ・文法よりもコミュニケーション力の養成に期待。
- ・文法よりも、聞いて話せる生きた英語の基礎を身につけて欲しいです。
- ・書くこと、読むことももちろん大事ですが「生きた英語」を子ども達に教えて頂けるとありがたい。
- ・日常会話が出来るぐらいまで話せるようになってくれればうれしいです。

(3)外国人(ネイティブ)の先生が教えること

次いで、「外国人(ネイティブ)の先生が教えること」という回答も多い(199件)。その理由をみると、第一に、綺麗な正しい発音が身につく、耳が慣れる、という音声に関わるものである。こうした期待の裏側には、後述するような、日本人教員の発音への不安もあると思われる(p.66)。第二に、外国人の先生と接することで、外国人への抵抗感が少なくなるきっかけになってほしい、というものである。

- ・日本人ではなく母国語の本場の人との英会話で英語を話せるようになる近道だと思います。文

第1章第7節 小学校英語への期待、不安や心配(自由記述分析)

法的な事をして、実用的ではないと思います(英語嫌いを増やすだけ)。外国人とふれ合う事で、いざ外国の人と話をする時、緊張しないですむと思います。

- ・外国人の先生に常駐してほしい(外国人と会話する不安や緊張感を取りのぞき、正しい発音を覚えてほしいから)。
- ・外国人の先生に習い、生の英会話を身につけコミュニケーションをたくさんとってもらいたい。

(4)発音や聞き取り(ヒアリング)ができるようになること

前述の(2)や(3)と関連するが、特に「発音や聞き取り(ヒアリング)ができるようになること」を期待するという回答がみられる(89件)。これは、(6)で後述するような、早い時期からの英語教育という考えともつながっていることが多い。このように、英語の音声に対する保護者の期待は数多くみられる。

- ・赤ちゃんが両親の話す言葉かけから日本語を覚え学ぶ様に、ヒアリングがとても大切だと思います。正しい発音とリズムを身につけて欲しいです。
- ・小学校では楽しい英語教育と正確な発音と耳づくりに力を入れていただきたいと希望します。
- ・英語に関しては、まず聞きとる力を身に付ける事が重要だと思っています。それには小さい頃からヒアリングになれて、発音を正確に聞き取れて発音する力を付けさせてあげたいです。

(5)英語の授業時間数を増やすこと

ここまでみてきた(1)から(4)には、何を目的に英語教育を行ってほしいかという点での期待が表れている。これに対して、目的そのものではなく、英語教育を行うかたちについて言及する回答があった。ここでは、授業時間数を増やしてほしいというものである(78件)。

- ・今は1ヶ月に1回ぐらいしか学校の授業がないようで、それぐらいだとすぐに忘れてしまうと思うので、もう少し回数を増やすなどした方が良いのではないかと思います。
- ・英語を習うなら、ちゃんと英語の授業の時間を週に何回かとり、反復できる様にして欲しい。中途半端に国際理解の中での授業で、年に数回という取り組みはして欲しくないです。

(6)早い時期から英語を学ぶこと

(1)から(4)で示したような、発音や聞き取る力、あるいは英語に対する慣れや親しみという点と関連して、早い時期からの英語教育に言及する回答がみられた(78件)。これには、小学校よりも前の段階から英語教育を行った方がよいという声も含まれている。また、早い時期から英語を学んだ方がよいという考えの背後には、保護者自身の英語体験が関係している場合もあるようだ。

- ・文法よりも耳で聴く勉強から始める事が大切だと思います。恥ずかしがらずに話せる年齢が最も重要であると思います。小学生でなくても、もっと早い時期でもよいと思います。
- ・早いうちに教育を受けていると発音もよいと聞き、自分が中学の時からだだったので、もっと早くから教育されていたら、もっと違ったと思う。将来の為にも、早めに教育を受けさせたい。

(7)小学校の英語教育の目標を明確にして、指導体制(カリキュラム・指導者など)を充実化すること

(5)で取り上げた授業時間数増の希望とも関連するが、教育内容そのものに対する期待ではなく、目標や制度的な位置づけを明確にし、それを支える環境整備をしてほしいという回答もみられる(59件)。

- ・小学校へ英語教育を入れるのなら、きちんとしたカリキュラム、教科書、英語専門の教師等を導入してから授業としてやってほしい。そういうかたちなら小学校低学年からでもいいと思う。
- ・今後、導入する事はよいが、指導できる教員の確保等、キチンと体制を整えてからにして欲しい。現在の総合の時間の英語教育も中途半端。
- ・「異文化教育」なのか「英語教育」なのかをはっきりと見極めて、適切な指導方法を見出して欲しいと思います。せっかく時間を割いて行うなら、もっと徹底した方が望ましいです。

(8)中学校での英語学習をスムーズにすること

中学校からの英語教育をスムーズにするものとして、小学校段階での英語教育を考えている声もみられる(55件)。先に取り上げたような、音やリズム、あるいは簡単なアルファベットに触れる体験などを通じて、英語への慣れや親しみを育み、中学校から本格的に始まる英語学習の下地を作っしてほしい、というものである。

- ・中学校の英語教育への橋渡的な学習ができればよいと思います。…(中略)…小学生で、英語に慣れ、その後中学で更に伸ばして欲しいと思います。
- ・中学校でスムーズに英語がうけ入れられるくらいの教育が、小学校で学習できていたらいいと感じます。
- ・小学校のうちからアルファベットや単語等、簡単なものを取り入れる事によって、中学からの英語の授業が、少しでも楽になるのではないかと思います。

(9)英語の基礎基本(アルファベット、単語、基本文章、筆記)を身につけること

ここまで、音声に関する期待が多かったが、その一方で相対的に数は少ないものの、アルファベットや単語といった文字や文章についての言及もみられた(38件)。興味や楽しさを維持しながら、基礎的な文字学習を進めてほしいというものである。

- ・小学校では、アルファベットや基本文章位(中学校1学期)の学習を、ていねいに楽しくする位でいいのではないか。
- ・会話も大事ですが、中学の授業は、書くことが重要なので遊びの部分は少なくていいと思う。読む、書く、アクセント等、基本的な、試験に役立つ英語がまず何よりも大事だと思います。

(10)外国の文化や言語に触れること

明確に言及しているケースはそれほど多くはなかったが、外国文化に触れるという体験が重要だという回答も最後に示しておきたい(37件)。以下の回答では、音声や読み書きといったことより、外国文化や言語に触れる経験を重視してほしい、という保護者の意識が表れているだろう。

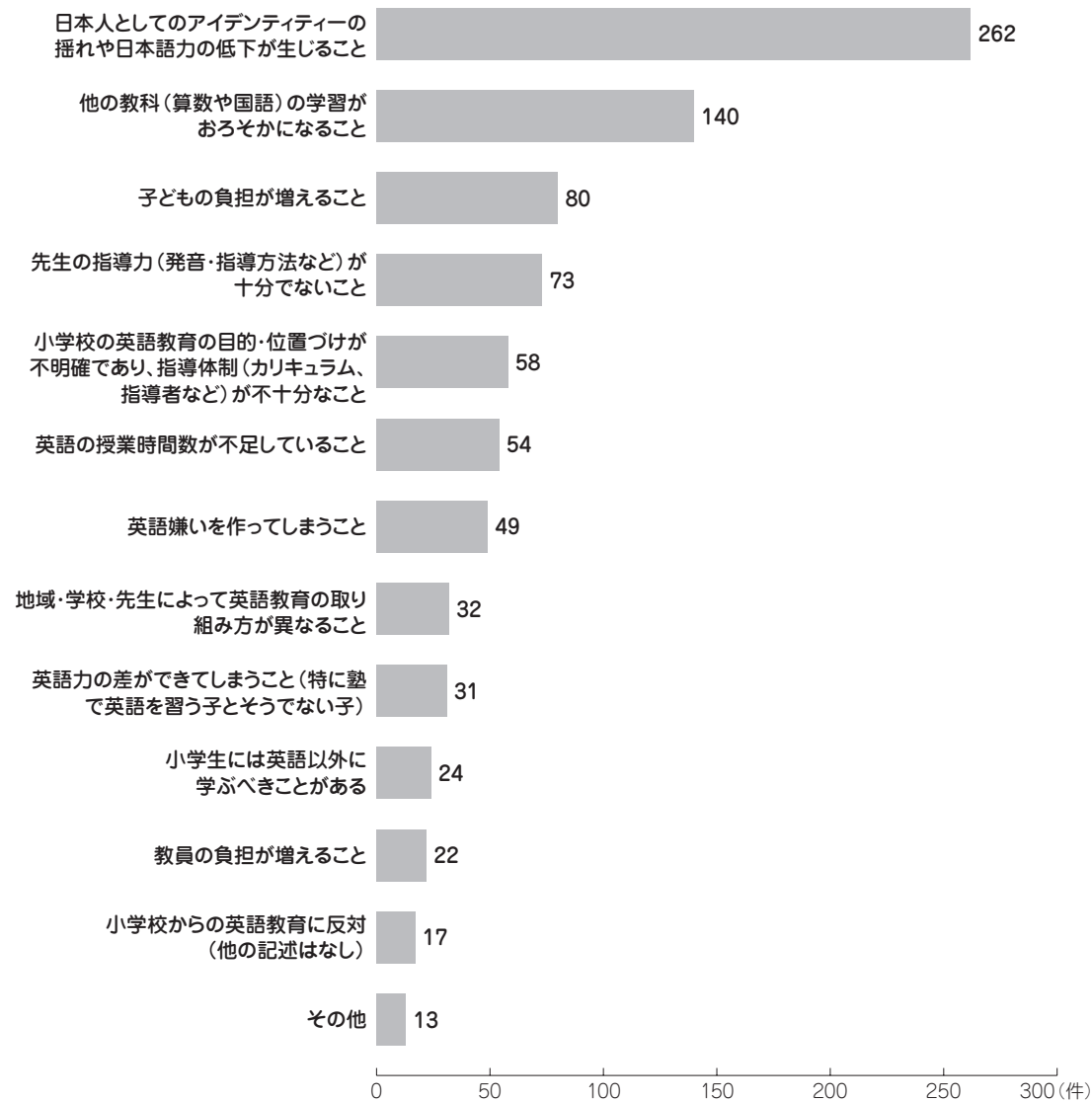
- ・早期教育には懐疑的だが、小学生になったら、異文化に触れる体験も良いのではないか。自分とは違う人、言葉、文化がある、という認識は、幼ければ幼いほど柔軟なのは。
- ・私は英語に関しての教育は小学校のうちには発音や読み書きうんぬん、ということを求めるよりは、日本語以外の国の言葉にふれて、そこの生活圏に住んでいる人と出会う事、コミュニケーションをとって異文化にふれて欲しいと思っています。又、その事に積極的に取り組んでくれればと思います。

②不安や心配に思うこと

小学校英語への不安や心配としては、「日本人としてのアイデンティティーの揺れや日本語力の低下」をあげる声をもっとも多い。また、「他の教科の学習がおろそかになること」への心配も多くあげられている。

Q 小学校での英語教育に対して、期待することや、不安や心配に思うことがありますか。もし何かございましたら、ご自由にご記入ください。

図1-7-2 小学校英語に対して不安や心配に思うこと



*調査回答者4,718人中、本設問に何らかの記述があったのは1,570人であった。1人分の回答でも、内容的に複数に分かれるものは分解して分類したため、分析対象は2,437件であった。このうち「期待すること」に分類したものが1,475件、「不安や心配に思うこと」に分類したものが855件であった。その他に、論点とは異なる記述や「特になし」などの記述があったものが107件あった。ここではそのうち、「不安や心配に思うこと」に分類した855件を示す。

前項では、「小学校での英語教育に対して、期待することや、不安や心配に思うことがありますか」という設問の自由記述回答から、「期待すること」についてみた。続いて、本項では「不安や心配に思うこと」をみていきたい(図1-7-2)。

(1)日本人としてのアイデンティティーの揺れや日本語力の低下が生じること

もっとも多くみられた回答は、日本人であることや日本語との関係を不安視するものである(262件)。外国語や外国文化の学習は、日本語や日本の文化への理解を身につけてから進めればよいという意見や、日本語力の低下を心配する回答がみられた。

- ・日本語や日本の文化をきちんと身につけた上で、英語を学ぶことが望ましいです。日本人としてのアイデンティティーを確立しつつ、英語や他の外国語を学んでいけば、日本人として世界の人々と関わり合っていくことの方が大切に思えます。かたちからも大切ですが、そういった意識を持った上で学ぶのであれば歓迎します。
- ・日本語もしっかり学習していないところで英語を教育していく事について、両方が中途半端になるような不安がある。
- ・小学校での英語教育導入は反対です。学校では、もっと国語、読書(本に親しむ事)を増やすべきです。日本語も上手く話せない、書けずして、英語に時間を割くのはますます日本人のレベルが下がってしまいそうで恐ろしいです。

(2)他の教科(算数や国語)の学習がおろそかになること

次に多かったのは、他の教科の授業時間との兼ね合いを不安視する声である(140件)。完全学校週5日制の中で、限られた授業時間数をどのように配分するべきなのか。現在、学力低下が起きているのではないかと。こうした中で、小学校の段階から英語教育を進める必要があるのかどうかを不安や心配に感じているという回答である。

- ・学力低下、体力低下と言われているのに、英語教育より、国語や算数などの教育に時間を使ってほしい。
- ・週休2日制のゆとり教育になってから、全体的に学力低下で時間におわれる先生方はたいへんそうに思え、反面、子供達は、あまり頭に入っていないような矛盾を感じています。そんな中で英語を習う事になると、新しいものに興味はあり、ある程度の学習力はつくと思いますが、その分、肝心の国語、算数などが落ちてくるような、不安な気持ちです。時間割も、英語が入ってくるとその分、何かカットされてしまうのではないのでしょうか？
- ・学校が週5日ではなく、週6日になるなどして授業時間数を確保できないなら、中途半端に英語をとり入れる事で他の教科(特に国語、算数)の学力低下が心配です。今、日本の子供たちに不足している物が多過ぎて単に英語教育をすればよいだけではないと思うので、非常に難しい問題だと思いました。

(3)子どもの負担が増えること

さらに、(2)とも関連しているが、以下のように、小学校で英語教育を行うことが、子どもの負担となることを心配する意見がみられる(80件)。

- ・小学校への英語授業の導入については、全くの反対ではないのですが、本来の母国語の能力低下が甚だしいのに、このまま増教科となれば、先生方も子ども達にとっても、負担の増になり、中途半端なことにならないかと危惧します。
- ・小学校での英語教育は必要ないと思います。子どもたちは現在のゆとり教育とは名ばかりの

第1章第7節 小学校英語への期待、不安や心配(自由記述分析)

現場で、ものすごく忙しく、ゆとりのない生活をしています。これ以上負担をかけさせるのはかわいそうです。

- ・今でも週5日で土曜日は休みになった分、学校での授業時間確保が子供たちを窮屈にしていると思う。そのうえ英語の時間が増えるようであれば、まず、土曜日の休みをやめて、もっと子供たちにゆとりを持たせたほうがよいように思います。小学校一年生から5時間授業がある、このゆとりのない今の教育方針をみなおすのが、英語教育を取り入れる前にすることだと思います。今の公立の小学生が、昔のように放課後あそび時間がありません。

(4)先生の指導力(発音・指導方法など)が十分でないこと

教員の発音や、指導力に対する不安がみられる(73件)。日本人教員の「正しくない」発音に子どもが触れるのは困るというものや、大学の教員養成課程などで専門的に英語の指導法を学んだわけではない教員が、子どもたちに英語教育を行うことに不安を感じる、というものである。また、ALTなどに関しても、指導力に不安があるという声が聞かれる。

- ・発音など専門外の教師に小学生の時に教わると、かえって誤った知識を身につけてしまうのでは…。
- ・専門に勉強したわけでもない担任が、教えている現在の英語は、全く無意味だと思うし、変な発音が入っては困ると思う。何のための英語教育なのか考えてほしい。普通の教科も満足にできていないのだから、片手間にやってほしくないし、やってよい教科だと思えない。
- ・教えてくださる先生に対して(教え方も含めて)、一番不安があります。ネイティブの先生であっても、本当に教え方(日本の子供に対しての教え方)が上手なのか心配です(発音については心配はないですが)。英語を専門に勉強した日本人の先生であるなら発音が心配で、小学校の先生方(特に英語を専門に勉強されていない、いわゆる小学校教師の方)ですとなおのこと、発音はもちろん、英語に関して全て不安です。初めて、子供達が英語に触れるわけですので、いわゆる“ジャパニーズイングリッシュ”ではいかがなものでしょうか?生のネイティブの発音に近い、良い発音で教えて頂きたいと思っています。下手な音楽を聞いて、音楽センスがみがかれないのと同じだと思っています。子供が英語に良い印象と興味をもって学べないと(上手に指導して下さる先生でない)、逆効果になってしまうと思います。ですので、ちょっとした英語といって、簡単に軽くみないで、英語指導は専任の先生に見て頂きたいと思っています。

(5)小学校の英語教育の目的・位置づけが不明確であり、指導体制(カリキュラム、指導者など)が不十分なこと

次に取り上げるのは、カリキュラム上の位置づけや、それを支える指導者などの体制についての不安や心配である(58件)。英語教育を行う体制に関する不安は、第1章第5節でもみられたが、今後、どのように条件整備を進めていくのかは大きな課題といえそうだ。なお、英語教育を行う体制に関しては、前項で「期待すること」としても取り上げたが、ここでは明確に不安や心配が表明されているものを分類して以下に示した。

- ・今の英語教育は、中途半端で、やらない方がよいと思う。時間のむだ。今の内容なら、国語、数学に、まわした方がよい。が、今現在の時代に会話(英会話)ぐらいできなければ…。あれやこれやと、減らすのも良いが、今の教育内容には目的がなさすぎる。全てが中途半端で親は皆、塾にしか希望を持ってなくなっている。もっと、内容のある目標のある、教育内容にしてほしい。
- ・英語を苦手と感じている教員が授業をしていたり、学校によって、教育課程が違うのが現状

である。どこまで、しっかりした英語教育が行われる、行うことができるのか心配。中途半端なら、あえて導入する必要なし、それよりも心の教育を。

- ・やるのであればきっちりとやってほしい。お遊び程度の授業なら、他の科目に時間を使ってほしい。低学年なら楽しい遊びでも良いと思うが、高学年なら中学の準備段階として考えてほしい。

(6)英語の授業時間数が不足していること

これも前項で、授業時間数増を「期待すること」として取り上げたが、ここでは英語の授業時間数不足に関して、不安が書かれている記述を取り上げて以下に示した(54件)。

- ・現状、外国人の留学生と触れ合う機会はありますが、(学校の授業で)回数が少なすぎるので、月に3~4回に増えるといいと思います。子供達が生き生きしているだけに、この回数は残念。せっかく身についた単語も、月に1度程度では忘れてしまいます。英会話できるレベルはとても遠いものです…。
- ・現在の英語教育では、たまにしか英語の時間がない為、子どもは次の時間には殆ど忘れてしまうのではないかと思う。どうせ英語の授業を取り入れて頂けるなら、もう少し時間数を増やさなければ、あまり意味が無いように思ってしまう。
- ・英語の授業は、1年間に1回ですので、子供は、英語に対して余計不安を覚えてしまった様な感じの所があります。

(7)英語嫌いを作ってしまうこと

前項でみたように、英語に慣れ親しみ、楽しんでほしいということを「期待する」回答は多いが、こうした願いの裏返しとして、小学校で本格的に英語教育を行うことが、英語嫌いを作り出してしまう可能性もあるのではないかと、という不安も寄せられた(49件)。

- ・まずは、楽しく、違和感なく、やってもらえればよいんですが、始めにきらいになってしまうと、中学、高校までいやな科目になってしまうので、そのへんをを考えて学習して欲しいと思います。
- ・子どもの脳・耳の柔らかいうちに、英語を学ぶのはとても良いことだと思う反面、必修となり、小学校のうちに苦手意識を持つと中学、高校と、おくれてしまうおそれがある。
- ・英語の授業を受ける本人が楽しく受けることができるのが一番だと思っています。ノルマなどがある授業(宿題・必ずおぼえなきゃいけないなど)は子供の意欲をなくすのでそれが心配です。

(8)地域・学校・先生によって英語教育の取り組み方が異なること

現在のところ、必修化以前の段階にある小学校での英語教育には、統一的なカリキュラムはない。教育内容や頻度もまちまちであり、指導者の状況もさまざまである。そのため、地域差や学校差などが、小学校段階で生じるのではないかと懸念があげられている(32件)。

- ・小学校での英語教育に賛成であるが、どの地域どの学校であっても、均一したレベルの教育を受けることができなければ格差が今より生まれてしまう。英語教育導入のまえには、指導者側のしっかりとした体制作りが不可欠である。
- ・小学校での英語教育には地域差があり、我が子が通う小学校では学期に2~3回程度、同じ公立小学校でも週に1度のところもあり、不安に思います。
- ・各学校で、指導内容がちがったり、先生のレベルが、ちがうのでは、中学に入学した際、英

語力に差が出ると思う。中学での英語につまずく様に思う。

(9)英語力の差ができてしまうこと(特に塾で英語を習う子とそうでない子)

前述の(8)では地域や学校の違いによって、子どもたちの力に差がついてしまうのではないかと懸念を取り上げたが、家庭環境の違いによる子どもたちの差を懸念する声もある(31件)。特に、塾通いの有無が、小学校やその後の英語学習において、子どもたちの力の差を広げることにならないか、というものである。

- ・学校間での英語教育に対する温度差、小さい頃から英語塾に行っているか否かなどで、中学校での英語スタート時に、すでに学力差が広がっている事が不安。また、中学入学時に出来る子や、早期に学習開始している子にあわせて、教師が授業を進める事により、益々、差が開いていくのではないかと思う。
- ・英語を小さいうちから教育することは大賛成です。でも、それぞれ家庭には色々あり、経済的に余裕のある家庭は、塾などに通わせたりして、同じ子供なのに差が出てくると思います。塾に通わせられない家庭の子供が、みじめな思いをする英語教育だけはしてほしくないです。

(10)小学生には英語以外に学ぶべきことがある

前述の(2)では、国語や算数といった他の教科とのバランスに関する不安や心配を取り上げた。これとも関連するが、教科学習に限らず、小学校では英語以外にまず学ぶべきことがあるのではないか、という意見である(24件)。

- ・確かに、発音などは低年齢のうちにはじめないと、身につかないなと感じますが、学校で義務教育に組みこむのには、賛成できません。もっとやるべきことがあると思います。自己表現、言葉で話す、聞く能力の低下をふせぐ事の方が先ではないですか？
- ・これからの子供達にとって、英語を使えるというのは、必須になると思います。が、それよりも、人間として、学ぶべきことが沢山あるような気がします。人としての常識や、尊敬、思いやりの気持ちなど、たとえ、英語を上手く使いこなせても外国の方たちとのコミュニケーションなど、できないような気がします。

(11)教員の負担が増えること

最後に、教員の負担感に関して、保護者も不安に感じているという回答をあげておこう(22件)。前述の(4)や(5)では、教員の指導力や指導体制の不十分さに関する不安をみたが、体制が整っていない現状での英語教育は、教員にとっても負担になっているのではないか、という懸念である。

- ・ニュースで英語教育について取り上げていたものがありました。先生自身が、かなり不安な様に思いました。この英語教育をはじめる上で、先生達が、かなり苦勞されるかと思えます。学校というのは、先生も、楽しい場所であってほしいので、あせらず、ゆっくり取り組んでほしいと思います。
- ・小学校の教員の英語の指導力が大丈夫なのか？又、英語教育が先生の負担を重くするのではないのでしょうか？現在でも、各教科の単元の進みが早く感じ、余裕のない教育だと思っているのに、英語の教科を入れる時間があるのか？